１．題材　「自分のだ液で消化の実験をしよう」

２．目標

３．指導計画（全３０分）

指導内容	体験方法の留意点
１、場所の指定。実験上の注意。 ２、本時の課題をつかむ。	１、立ったまま状態も可。見える位置に。
「だ液で、デンプンが分解したことをヨウ素液で確かめよう。」	
３、ヨウ素液は、デンプンを青色に変化させることを演示する。 ４、実験の手順を説明する。 ①２つのビニル袋を準備する。黒ペンで、片方に、だ液と描かせる。 ②２枚のろ紙のうち、片方を口に含み、だ液（つば）をしみこませる。 ③だ液と描いた袋に、だ液の付いたろ紙をいれる。 ④もう一方には、ろ紙をそのまま入れる。 ⑤両方に、ビーカーのデンプン液をプラピペット２回分を入れる。 ⑥両方のジップを指で押さえて、閉じる。液が漏れないように。 ⑦両方の袋を手のひらであたためる。 ５、＝あたためている間に、別の実験を行う。＝ ⑧両方の袋に、ヨウ素液を３滴入れる。 ⑨袋の中の色の変化から、だ液の方のデンプンが無くなったことをしる。 ６、片付ける。準備したバットごと、後ろのテーブルに移動させる。【３分】	２、体験を重視したいので、説明は、必要最小限留める。 ★口に含んだろ紙は、かんだりしないで、つばをしみこませるだけにする。 ★袋の口を押し開きながら、デンプン液をいれる。難しいときは、手伝ってもらう。 「トイレットペーパーとティッシュペーパーの違いを調べよう」 ★はじめの演示を思い出す。ヨウ素液は、デンプンに反応して、青くなる。 ★だ液の方にデンプンが無くなったことをしるが、何に変化したかは、分からない。 ３、指示にしたがって、片づける。

参考：